

第 371 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2018 年 2 月 13 日(火) 17 時 30 分~19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階研究所 セミナー室

演 者: 川 茂幸 氏

松本歯科大学歯学部内科学・特任教授

タイトル: IgG4 関連疾患、疾患概念の確立と概説

IgG4 関連疾患とは IgG4 が関連する全身性疾患で、近年提唱された疾患概念である。自己免疫性疾患と考えられているが病因・病態の詳細は未だ不明である。本症の臨床的特徴は、①病変が全身に分布し、これらの多くはこれまで独自の病名で診断、治療されていた、②画像所見として腫大、結節、壁肥厚を呈する、③血中 IgG4 値が通常 135 mg/dl 以上である、④病変局所にリンパ球形質細胞浸潤、IgG4 陽性形質細胞浸潤を認める、⑤ステロイド治療に良好に反応する、⑥他の IgG4 関連疾患を同時性、異時性に合併することが多い、にまとめられる。自己免疫性膵炎、ミクリッツ病が代表的な構成疾患であるが、ほぼ全身諸臓器に分布することが明らかになってきた。

本疾患概念成立の過程には、①自己免疫性膵炎で血中 IgG4 値が高率・特異的に上昇する、②自己免疫性膵炎の病変組織に IgG4 陽性形質細胞が特徴的に浸潤する、③自己免疫性膵炎には涙腺・唾液腺炎、硬化性胆管炎、後腹膜線維症、尿細管間質性腎炎などの膵外病変が全身性に合併する、④これら膵外病変にも膵組織と同様に IgG4 陽性形質細胞が浸潤し、ステロイド治療に良好に反応する、などの事実が明らかになり、自己免疫性膵炎と膵外病変を包括する、IgG4 が関連する全身性疾患が想定されるようになった経緯がある。

本セミナーでは IgG4 関連疾患、疾患概念確立の経緯と代表的な IgG4 関連疾患である自己免疫性膵炎、涙腺・唾液腺炎(ミクリッツ病)、硬化性胆管炎、後腹膜線維症などについて概説する。

*Matsumoto Dental University*  
*Graduate School of Oral Medicine*

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,  
Nagano 399-0781, Japan

略 歴

- |       |     |                                 |
|-------|-----|---------------------------------|
| 1977年 | 3月  | 信州大学医学部卒業                       |
| 1977年 | 6月  | 信州大学医学部内科学第2教室に入局。              |
| 1985年 | 4月  | 信州大学医学部内科学第2教室助手                |
| 1991年 | 10月 | 米国ワシントン大学(シアトル)に留学              |
| 1993年 | 1月  | 信州大学医学部内科学第2教室講師                |
| 1998年 | 1月  | 信州大学医学部内科学第2教室助教授               |
| 2005年 | 12月 | 信州大学総合健康安全センターセンター長、教授          |
| 2017年 | 4月  | 松本歯科大学歯学部内科学・特任教授、<br>信州大学・名誉教授 |

担当:健康増進口腔科学講座 吉成伸夫